

平成 29 年度

横浜市立高等学校
及び
併設型中学校

学校関係者評価書

対象校：横浜市立 南高等学校

調査全体の日程

調査日：平成 29 年 10 月 1 日 ～平成 30 年 3 月 31 日

調査対象校：横浜市立 南 高等学校

調査チーム： 横浜市立南高等学校・南高等学校附属中学校 学校運営協議会

1 第 2 期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進状況について

・南高等学校では、平成 27 年度文部科学省より SGH の指定を受け、その基盤となる総合的な学習の時間を活用した教科横断型の探究学習 (TRY & ACT) が、教育課程の中に、目的を持って定位していることが評価できる。

・中高一貫の視点では 6 年目を迎え、完成年度となった。この 6 年間の成果は、中高 6 年間を見通したカリキュラム編成に認めることが出来る。特に、学校開設期に設定されたカリキュラムから、より良いカリキュラム編成を行うための取組が行われ、その成果は、大学進学に直接的に結びついたと言えよう。さらに、このカリキュラム改編により、一人一人の生徒の進路指導にも直接的に結びつき、生かされている。

2 教育活動の状況

■進路指導の状況

・進路についての説明は、本年度初めて中高一貫による卒業生を出すため、丁寧に行われ、教職員による進路ガイダンスのみでなく、外部講師による進路説明会も開催している。また、進路指導の一環としてキャリア教育の充実も図られている。

■教育相談の状況

・学習面のみでなく、より豊かな人間性や豊かなこころの充実を目指し、教育活動が行われている。そこでは、個別面接のみでなく、日々の生徒と教員とのコミュニケーションを重視しようとする姿勢が見て取れる。

・進学指導が重点とされる学校であり、生徒の進学への意欲にも高いものがある。そのため、生徒一人一人との個別指導に重点が置かれており、きめ細やかな指導が行われている。

□生徒指導の状況

・下校時のマナーが、問題となっている。特に、生徒の通学範囲が広域からとなっているために生じた問題でもある。これまでも指導を行ってきたが、一層の指導が求められる。また、学校のみでなく、家庭や地域との連携も求められる。

□生徒会・委員会活動の状況

・生徒会主催の活動においては、学校全体で生徒が協力し取り組んでいる。

□学校生活の状況

・学校行事、課題研究等においては、生徒全体が協力して活動を行っており、その活動を通し、一人一人の自信と、他者との交流を通しての自己啓発が行われている。

・学習のみでなく、学校での行事や学級活動等の、日々の学校生活を通し、全人的な資質・能力の向上が図られている。

3 学校経営の状況

□組織運営及び教職員研修の状況

・学校教育目標の実現のために、組織的な取組が行われている。特に、アンケート調査の設問 14 におけるポイント数が上昇していることは、教職員の意識が向上していることが認められる。さらに、設問 15 に関しては、特段の上昇率であり、学校経営方針に対する理解が、教職員に浸透してきていることが分かる。

ただ、課題として取り上げられているが、校内研修・研修体制については、次年度の取組が求められる。特に、授業改善は、全国の高等学校における喫緊の課題であり、新学習指導要領が求めている「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」のバランスのとれた育成に向けては、一層重視することが求められる。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

・平成 30 年 1 月 26 日に「横浜市立南高等学校 学校いじめ防止基本方針」が改訂された。これまでも、いじめの早期発見と未然防止に取り組んできているが、より一層の充実が求められる。特に、生徒には、人権意識の向上と共に、より一層の効果ある指導が求められる。

5 総評

・附属中学校が設置されてから6年が経過し、中学校から進学した生徒が高校三年生となった。この間、様々な試行錯誤の基に、高等学校改革を進めてきたことは、評価できる。また、SGH の指定研究により、授業改善も図られている。

・横浜市立南高等学校で行われている授業は、新学習指導要領の改訂を先取りしており、全国の高等学校での授業のモデルになるものでもある。特に、「主体的・対話的で深い学び」の実現は、各教科等において行われており、このような授業をさらに充実することが次年度に求められる。

・学校全体として管理職のリーダーシップにより、より学校全体の教育活動において充実が図られていることは、評価したい。